議 事 録

会議名称	第5回小松市未来型図書館基本構想策定委員会
日 時	令和5年2月6日(月) 13時30分～16時00分
場 所	小松市役所7階会議室
出席者	<p>(敬称略・順不同)</p> <p>小松市長 宮橋 勝栄 小松市教育委員会教育長 石黒 和彦</p> <p>小松市未来型図書館基本構想策定委員会委員7名</p> <p>座 長 平賀 研也 副座長 西村 聡 委 員 金子 哲也 委 員 久保 由味子 委 員 道券 悠一 委 員 山元 加津子 委 員 尾木沢 響子</p> <p>事務局(生涯学習課未来型図書館づくり推進チーム、小松市立図書館) 横山、坂下、千葉、吉田、中山、梶谷、加藤</p> <p>支援業務受託者(アカデミック・リソース・ガイド株式会社(以下「a r g」)) 有尾、西谷/李(オンライン参加)</p>
欠席者	委員 中村 知恵
次 第	<p>議事</p> <p>未来型図書館の立地候補エリアについて</p> <p>小松市未来型図書館基本構想素案について</p> <p>その他</p>
配布資料	<p>【資料1】未来型図書館の立地候補エリアについて</p> <p>【資料2】小松市未来型図書館基本構想素案について</p> <p>【資料3】人材育成講座の取組み状況について</p>
傍聴者	5名

<会議内容は下記のとおり>

挨拶（宮橋市長）

昨年7月から始まった基本構想策定委員会も本日が最後の委員会となる。委員の皆さんには熱心な議論や、つながるミーティングへも積極的にご参加いただき対話を深めていただいたことにまず感謝申し上げたい。

これまでの委員会やワークショップを通して、ビジョン・コンセプトを固めることができた。研究・検討課題は多くあるが、ビジョン・コンセプトを実現していくためにも、まずは立地の件が重要である。様々な観点から候補エリアを3つに絞り込んできたが、市としては、芦城公園を中心に立地候補地を考えていくことが最も適当だと考えている。ビジョン実現のためには広さや用地の確保が重要である。芦城公園周辺には、多様な施設が多く点在している一方、老朽化等の課題も抱えているため、公共施設マネジメントと一体となって考えていくことが妥当と考えている。今日は市としての考えを説明し、策定委員会の皆さんに議論・ご意見をいただき、一つの方向にまとめていきたいと考えている。

未来型図書館づくりは単なる公共施設、ハコモノをつくろうということではなく、多くの市民との対話のなかで、一つの方向性ができてきていると感じている。今後も、施設づくりだけでなく、まちづくり全体に活かしていくことができるのではないかと感じている。今後も様々な課題や事業手法等については引き続きしっかりと議論していきたい。また、何よりも、述べ250名の方に参加いただいたつながるミーティングの機運もしっかりと繋いでいきたいと考えており、図書館をつくることを目的にせず、施設が完成した後も見据え、引き続き市民に参画していただける仕組みづくりの重要性も感じている。来年度は「こまつリビングラボ（仮称）」を設置し、対話の機会もより一層設けていきたい。また、現図書館とともに、周辺施設も活かしながら、新しい図書館ができるまでの期間において、随時、実現できることから実施していきたい。委員の皆さんには引き続き、様々な立場から参画していただけたらと思う。本日は、立地の考え方等についても説明するので、忌憚ないご意見をいただきたい。

1. 議事

(1) 未来型図書館の立地候補エリアについて

①未来型図書館の立地候補エリアについて事務局より説明。（資料1）

【主な質疑応答・意見交換】

平賀座長	前回までの委員会で議論を重ね、候補地7か所から芦城公園周辺、小松駅周辺、小松運動公園周辺の3か所に絞り込んできたが、その後「新たな活気とにぎわいの創出、市民生活の利便性の向上の観点」、「未来型図書館のビジョン・コンセプトとの親和性の観点」、「事業手法・財政負担の観点」、「公共施設マネジメントの観点」、「図書館サービスのバランスの観点」の5つの観点から、今回新たに市の方で評価をしていただき、先ほど市長から示された芦城公園周辺が最適ではないかという方向性がでた。このことについてご意見をいただけたらと思う。
西村副座長	立地エリアを芦城公園とする方針については、「わくわく感」が得られるとともに安心感があるように思う。現状、大型商業施設があることから小松駅東側に活気があり、全体としてはバランスが取れるという考え方は良いと思う。一方で、図書館として活気やにぎわいが最大の目的なのかといった疑問もある。回遊性という言葉を使って説明いただいたが、ワークショップでのまち歩きを通して、駅と芦城公園をつなぐアーケードの商店街に立地すると良いのではないかと感じていた。アーケードの活気や賑わいということにつながると良いのではないかとも思う。駅の近辺は用地確保が厳しいことは

	<p>理解したが、空き店舗や駐車場など利用するという可能性もあっていいのではないかと感じた。</p> <p>昨年の調査報告書について、回答者が若者が多く、偏りがあったのかもしれないが、駅周辺にという要望がかなり多かったと思う。駐車場も必要ではあるが、高校生にとっては、車は使用しないため、現在の市内の学校がどこに立地しているかを考えると、多くの高校が東側にあり、学校に通っている生徒たちにとっては遠いのではないかとという懸念がある。東側にも本の検索や返却システムが導入されれば、バランスが取れるのではないと思う。</p>
山元委員	<p>芦城公園が一番良いと思う。用地は非常に重要であり、経年劣化の課題がある公会堂についてもいづれ手をつけなくてはならない問題。このタイミングで一緒に考えることができるのであれば、それは良い機会かと思う。図書館へ向かう道中であるアーケードの活性化にもつながり、まちづくりの要になっていくのではないかと感じる。市役所に近いことも重要だと感じている。</p>
道券委員	<p>芦城公園周辺は、文教施設が近接し、バランスが良いと思う。老朽化の見直しにもなり、近辺の発展に貢献できるのではないかと感じる。ただし、駐車場確保についての心配はあり、検討課題であると感じる。</p>
金子委員	<p>商工会議所青年部では全国大会を控えており、各地を回る機会が多い。やはり他地域でも駅周辺で魅力的な施設ができていることが多く、そういった意味では小松駅周辺が良いかと思うが、土地の確保についての課題がある。芦城公園も駅から1 km 圏内であり、駅からの交通的な面からも一体的な整備や、公会堂等も整備していくことで魅力的な場所になると思う。自分も芦城公園周辺は適正だと感じる。</p>
久保委員	<p>芦城公園周辺が一番良いと思う。課題として駐車場確保についての問題があるが、駅からはそれほど距離があるわけではないと思う。都会の人のように、駅から楽しみながら歩く仕掛けをつくることできれば良いのではないかと感じる。シェアサイクルやキックボードなど検討できることもあるのではないかと感じる。</p>
尾木沢委員	<p>絵本館利用者の声を聞くと、駅周辺が良いという声が多かったが、施設ができることでまち全体のにぎわいにつながればとの思いもあり、芦城公園周辺は良いと思う。</p>
事務局 横山	<p>中村委員へ事前にご説明を行った。そのうえで「これまでの議論を通じて、芦城公園周辺が適当であると思う。駐車場についての課題とともに、芦城公園周辺に来たときに目的がなくてもふらりと入れる場所が増えれば効果的なのではないか」というご意見をいただいている。</p>
平賀座長	<p>駐車場問題、アーケードの活性化などのまちづくり、他の地域との接続等の課題は引き続き検討していきつつ、委員会としては、立地候補エリアは芦城公園周辺という意見集約としてよろしいか。</p>
全員	<p>意義なし</p>

(2) 小松市未来型図書館基本構想素案について

②小松市未来型図書館基本構想素案について arg より説明 (資料 2)

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	各章ごとにご意見いただきたい。まずは全体構成について、市民主体で共につくっていくプロセスを通して、基本構想を策定に向けて進めてきた。付け加えることなどがあれば伺いたい。
全員	特になし

第1章について	
平賀座長	最後のP27の今後の進め方の部分で、継続的・持続的に市民主体で共につくっていく、その体制づくりをしていくという内容が記載されている。今後の基本計画あるいは、建築段階、運用段階においても同様の思想で市民主体の事業を進めていくステートメントを第1章にも入れてしまってもいいように感じる。
山元委員	図書館は与えられるものではなく、小松市では、みんなで作り上げていくこともできるし運営もしていけるということをみんなに訴えていけるといいという意見も出ていた。これから先も市民が参加して取り組む姿勢を強調することは大事ではないか。
平賀座長	基本構想委員会としてこれからの進め方として、そのようなプロセスをとりましょうということを示せればと思う。施設づくりのステップ（階段の図版）も入れていただくと良い。
平賀座長	昨日のワークショップの参加者からも、「いよいよ自分たちも参加していくまちづくりが始まるんだ」というご意見をいただけたことが本当に心強いと思った。参加していた方が単に自分の意見を言うのではなく、10万数千人の小松市民のためにも伝えていこう、一緒にやっていこうという気持ちに溢れていたことに感銘を受けた。そういう姿勢を委員会としても言及できると良いと思う。
事務局 中山	施設づくりのステップ（階段の図版）に関連して、第2回のワークショップから参加している9歳の女の子から、本のタイトル案として「かいだん」という意見を出してくれた。幼いながらもこれまでの経緯を踏まえ、将来に向けての未来につながっていく階段であるということを感じてくれていることに大変感銘を受けた。
平賀座長	第1章の第2節として、今後の図書館ができたあとも続く視点を追加していただきたい。
arg 有尾	追加する。

第2章について	
平賀座長	これまで議論したビジョン・コンセプトについて、気になる点などはないか。
全員	特になし

第3章について	
平賀座長	<p>「(2) 役割（機能）についての検討」内の「⑤ まちづくり（施設はまちとどうつながっていくか）」や「⑥ エリア全体への展開（“知る”体験を広げる仕掛け）」の部分や用地の議題で西村委員からご指摘のあった内容にも関わる部分かと思う。先ほど挙げた「回遊性」や既存施設との連携などの言葉は入れても良いのではないかと思う。</p> <p>特に、先ほど用地エリアの方向性について意見集約ができたため、小松駅周辺の都市機能集約の中で、回遊性について言及していけると良い。また、既存の公共施設も含めて図書館とのつながりをつくっていくなど、少し具体的な表現にしてもらえると良いのではないか。図書館機能として、図書館が近くにならない他のエリアとのつながり方や既存の公共施設本棚との連携など地域のみなさんが本に触れて、図書館とも連携するというような仕組みが起こると良いと思う。立地の議論の際に出た意見など、デジタルも活用して資料に触れられる仕組みなど具体的に追記いただきけると良いと思う。</p>
arg 有尾	<p>「回遊性」等、先の議題でも重要なキーワードとなっていたため、反映していきたいと思う。「(2) 役割（機能）についての検討」内の「⑤ まちづくり（施設はまちとどうつながっていくか）」と「⑥ エリア全体への展開（“知る”体験を広げる仕掛け）」部分に反映したい。</p> <p>第2節「立地候補エリアについて」には、先ほどの議事1の内容を反映していく。</p>

第4章について	
平賀座長	<p>昨日のワークショップでは、参加者による対話のプロセスを記録すること、それを積み重ねることは非常に大切だと感じた。図書館づくりにおいても、いつでもこれまで議論してきたことに立ち返ることができ、そこを出発点としてどんどん進化させていくことが大切だとう意見もいただいている。最後のグループの発表でも映像として記録として残すというアイデアがでるなど、議論のあり方やそこで示された方向性を、常に未来に渡って振り返られるようにしておきたい。</p>

第5章について	
平賀座長	<p>事業手法について、現状は様々な事業手法の可能性について記載がされている状態だが、以前の委員会で、多様な手法の中から市民主体でというコンセプトを実現するにふさわしい事業手法を大事にして欲しいという議論があったかと思う。単にコスト比較での決定ではなく、それ以外に選定基準について委員会として大事にすべきことがあれば記載しておく必要があると思う。事業手法によって実現すべきものが何かということをよく考えることが重要。この小松市の未来型図書館に関しては、「わたしたちの図書館」として、常にみなさんが関わり続けられることが大事なのではないかと思う。市民主体、官民の新し</p>

	い公共のあり方を目指すことをこの委員会としては示しておけると良いのではないかと思う。
西村副座長	事業手法に関連した質問になるが、多機能複合施設になるという方向性は確定していると思うが、その際に、公会堂を壊して建設するといった意見がでていいる。芦城公園の周辺には老朽化した施設がいくつかあるので、どの部分の機能を未来型図書館に含めていくのかは、この場で考えていいのか、施設ごとに検討の場があり、それぞれで考えるべきことなのか教えてほしい。そこがわかると、議論がしやすくなるのではないか。
事務局 横山	今年度は未来型図書館の機能を検討し、その中で立地場所についても検討いただき、本日芦城公園周辺と決定した。このエリアには、美術館や公会堂、博物館などの施設があるが、それぞればらばらに議論しては同じ方向性で動くことができないため、今後、さらに参画していただく方を増やし、全体として議論していく必要があると考えている。
平賀座長	第3章に記載の機能をすべて含んだ施設になるのか、既存の施設をどうするのかについては、一度この委員会を含めて出てきた内容を、市の方でお考えいただき、こうしていきたいという方向性をまず出してほしいと思っている。そのうえで次のステップである未来型図書館の基本計画段階に入るが、そこで未来型図書館についての具体的な検討に進んでいくことになるかと思う。そのなかで、市内に分散する既存の施設の機能を改めて検討し、広く議論できる場があればいいと思う。まずは、市として、この事業の範囲がどこまでなのかを検討いただけると良い。他施設との関係性を今後は検討していきたい。今回の委員会議論内での結論としては施設に入れていきたい機能を挙げたというところになる。
山元委員	小さなことでも市民が参加できることを示していただけるととても良いと思う。
平賀座長	図書館完成前から、リビングラボのような組織で、市民と共に駅と芦城公園をつなぐ取り組みを実際にはじめてみることもとても重要である。一方で行政の地域経営の観点でのご判断も検討していただくことも必要である。
事務局 横山	冒頭の市長の挨拶にもあったが、「リビングラボ」のような新しい組織づくりが必要と考えている。西村委員にご指摘いただいた立地についても、リビングラボで考えていき、具体的に現図書館等でさまざまな実験や検証をしていく取り組みが必要だと考えている。
平賀座長	議論の領域が広がっているので、学校や博物館などどうしていくのかということ、市としてどう受け止められるかを固めていただく必要がある。そのうえで基本計画の議論として始まると良いと思う。
平賀座長	単純な事業手法の紹介だけでなく、市民主体の新しい公共のあり方を実現するにふさわしい事業手法を検討していくという方向性を盛り込むということによいか。
全員	異議なし
a r g 有尾	そのように対応する。
平賀座長	施設・蔵書規模の考え方については、地域のなかでの連携関係についても、先ほどの用地の話が決定したため、駅から芦城公園エリアにおける官民での連携関係、機能の明確化など、より具体的な記載を追加しても良いのではないかと思う。エリアの中心に都市機能の集積を考えていくことを記載していくで良いのではないか。

a r g 有尾	より具体的に駅などの固有名詞などがでてくると、市民にもどのようなことを検討していこうとしているか伝わり安くなると思うので、駅から芦城公園までのエリアについて、市全体の蔵書機能の連携の2つのテーマを盛り込んでいきたい。
平賀座長	蔵書の規模とあるが、図書館としては、本とそれ以外のメディアの情報が一緒に提供できることであったり、図書分類に沿った展示だけではなく、どのような棚をつくっていくのかということも図書館としての大きなテーマである。情報と空間のあり方、既存の紙の情報をどう見せるかを具体的に書いていただくと良いかと思う。そうした記載によって第3節「デジタルの活用」と繋げる構成としてはどうか。
a r g 有尾	現状、次節と少し分断した記載になってしまっているので、全体に関わっていることと次節への接続を含め具体的な要素を追加して掲載したい。
事務局 千葉	第3節「デジタルの活用について」であるが、図書館で使われるデジタル化という言葉は、資料のデータ化という視点で語られることが多い。挙げられている国会図書館の例はそうした資料のデジタル化についての話かと思う。そうした議論と並行して、DXについては、ロボットやオンライン会議などのデジタル技術の活用等、データ化ではない新しいコミュニケーションをつくっていくサービス等の議論も進んでいる。この節ではこれらの二つの観点と一緒に語られているように思う。国会図書館の例をここで提示することで、蔵書を紙で持たなくてよいというミスリードに繋がることは避けたいので、敢えて書く必要はないのではないかと思う。今後図書館はまちづくりや市民交流を担っていく複合的な公共空間として捉えられているので、明記していくべきはデジタル技術の活用なのではないかと思う。デジタル活用なのかデータ化かどちらの話をしているのかわかりやすく整理した方が良いのではないかと感じた。
a r g 李	資料のデジタル化のみ言及した記載に読めるので、これからの公共施設や地域における DX の活用のどちらも検討していく必要があるため、これらの内容を整理し、どちらも入れた方が良いのではないかという質問でよいか。
事務局 千葉	資料のデータ化の面については前節の蔵書の考え方の方に入れてしまえば、第3節には記載は必要ないのではないかと感じた。資料のデータ化についての議論、デジタル技術の活用の内容を住み分けて整理していくという記載にすることで十分伝わるのではないかと思う。 また、蔵書情報の鮮度を高めていくことは当然必要だが、デジタルデータ化してしまうと、本の売れ行きが危惧されるため、世間では出版から2～6ヶ月後以降でない、電子書籍は図書館に入れることができないという著作権ルールがある。実際の本でなければ鮮度を保てなくなる懸念もあるため、検討していくという記載にとどめても良いのではないか。
a r g 李	こういった具体的な懸念については、次年度以降議論したいと思う。デジタル活用については、現状そこまで深く記載していないが、足りない箇所は追記したい。電子書籍の話は、敢えて具体的に記載していない。理由としては現状の電子書籍の図書館に対してのサービスが民間サービスよりも非常に遅れている環境がある。基本構想段階で踏み込んで書かない方がいいのではないかと考え、記載していない。国立国会図書館についてだけ記載することで偏って理解されるという懸念については、平賀座長や事務局とも協議の上追記したい。
平賀座長	施設・蔵書規模の考え方については、あくまでも「図書館」について規模の言及であることを明確にし、図書館の施設及び情報についての考え方についての内容を合体させても良いのかもしれない。次節のデジタルの活用について情報技術の活用やコンテンツのデータ化について定義づけし、追記するという形で整理しても良い。

a r g 有尾	どの範囲を捉えているのか整理し、誤解を与えないよう自然な形に修正する。
平賀座長	デジタルにおいての、コンテンツをどう作るのかという図書館のなかの話だけではなく、情報についての考えを記載していくとともに、デジタル技術の活用については、別立てをしても良いように思う。改めて整理をお願いしたい。
平賀座長	事業推進スケジュール箇所についてこれまでの議論で出てきた観点・課題が漏れないよう記載を反映いただきたい。共通すべきことは何度出てきても良い、具体的内容は掲載するかたちで良いかと思う。
a r g 有尾	そのように対応する。

その他について	
久保委員	昨日のワークショップで決まった本のタイトル「わくわくしよっさ！！～未来型図書館がやってくる～」のニュアンスを追記したら良いのではないかと思う。
a r g 有尾	ワークショップで出てきたキーワードは、つながるミーティングのまとめとして重要な意味を持つと思う。また、プロセス箇所に第1章の後半に図版追加するのでそこに記載したいと思う。
平賀座長	「共創（共に創る）」が生真面目な義務的な話ではなく、みなさんが主体となって参画することでわくわくする・楽しいものになるというイメージが加わると良いのではないか。
a r g 有尾	検討する。
a r g 李	リビングラボについては間接的にデジタルの話とつながっている。先進地である北欧ではリビングラボはスマートシティやDXにおける実践の場として連動して進められている。民主的なプロセス・実践とDXやICTの環境整備は、それぞれが補完し合う考え方であることを補足させていただく。
平賀座長	今日いただいた修正案等は事務局側で調整の上、最終版は委員のみなさんに共有いただくようお願いしたい。

(3) その他

③その他人材育成講座の取り組み状況について事務局より説明（資料3）

【挨拶】

平賀座長	<p>市民参画での事業のあり方や進め方は、地域や市民の暮らしの主体をいかにつくっていくかということでもあると思う。こども司書や図書館エディターなど各個別の講座とも一体的に施設づくりを進められるとよい。また、市民の主体的な活動ともつなげながらひとつのビジョンに向かって進めていけると良いと思う。本年度検討した内容が確実に次年度につながり、具体的な事業の姿が紡ぎ出されていければと思う。6ヶ月にわたり委員会やワークショップに積極的に参加いただき、感謝したい。</p>
石黒教育長	<p>18名の子ども司書が誕生したという報告があった。学びとライフワークは好循環に密接につながっていくことが大切だと考えており、そういった意味で未来型図書館に非常に期待している。子ども達のまなびの質が上がり、社会とどうつながっていくことこそが大事であり、それこそが学校教育にも求められていると思う。子どもたちが自由に育っていく環境づくりが非常に大切。それを支える大人側はそれ以上に考え勉強していく必要を感じている。教科書の範囲からどれだけ出ることができるかを、この図書館で大事にしていきたいと考えている。引き続きアドバイスいただきたい。</p>
宮橋市長	<p>これまで様々な対話や議論ができたと思う。今後、計画等が進んでいく中で、立ち返るものが必要になってくる。そうした意味で、当初どんな議論をしていたかを立ち返るために、この基本構想は非常に重要であると思う。これを元に、様々な課題を整理し、基本構想に描かれた内容を具体化し、基本計画の検討に入るための調査をしっかりと進めていきたい。図書館機能という形で話してきたが、今後は市長部局において、教育委員会とも連携しながら、まちづくりも含めて進めていきたいと考えている。既存の図書館についても魅力アップを図りながら、未来型図書館づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>委員の皆様には、様々な形でご意見をいただいたり、ワークショップ等へのご参画いただくなど、引き続き、みなさんと共に未来型図書館を創りあげていきたい。</p>

以上